

山本学習塾からのお知らせ

R3年10月25日

朝晩少し肌寒くなってきて、気がつけば11月。今年もあと2ヶ月を残すのみです。受験生にとっては「勝負の時」が刻々と近づいてきています。不確定な未来の可能性をできるだけ広げ、進むべき選択肢を増やしてくれるのは、知識であり学問です。後悔しないように、すべきことを後回しにしないこと。好きなことや楽しいことばかりでなく、自分に必要なことに少しでも時間をかけて、将来の自分への投資をしていきましょう。

☆11月の予定☆

11/3 (水) 文化の日：休塾
11/8 (月)～13 (土)：塾内テスト
11/23 (火) 勤労感謝の日：休塾
期末テスト前：対策授業

期末テストの準備を

11月に入ると毎年、中学クラスの生徒に言っていること、それは期末テストのことです。中間テストの続きが範囲になることは分かっているのですから、今からワークを解き直してテストの準備をしましょう。全ての科目で実力を出せれば、これまでで最高の結果を出すことができるはずです。

★今村先生のつづやき★

今月は有名な「壺」のお話しを紹介します。ちょっと長いですが、今後の何かの役に立てばいいなと思います。

ある大学でこんな授業があったという。「クイズの時間だ」教授はそう言って、大きな壺を取り出し教壇に置いた。その壺に、彼は一つ一つ岩を詰めた。壺がいっぱいになるまで岩を詰めて、彼は学生に聞いた。「この壺は満杯か？」教室中の学生が「はい」と答えた。「本当に？」そう言いながら教授は、教壇の下からバケツいっぱい砂利をとり出した。そして砂利を壺の中に流し込み、壺を振りながら、岩と岩の間を砂利で埋めていく。

そしてもう一度聞いた。「この壺は満杯か？」学生は答えられない。一人の生徒が「多分違うだろう」と答えた。教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出した。それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけた。「この壺はこれでいっぱいになったかい？」学生は声を揃えて、「いや」と答えた。教授は水差しを取り出し、壺の縁までみなみと注いだ。

彼は最後の質問を投げかける。「僕が何を言いたいのかわかるだろうか」一人の学生が手を挙げた。「どんなにスケジュールが厳しい時でも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込む事は可能だということです」「それは違う」と教授は言った。「重要なポイントはそこにはないんだよ。この例が私達に示してくれる真実は、大きな岩を先に入れないかぎり、それが入る余地は、その後二度とやって来ないという事なんだ。」

「君の人生にとって”大きな岩”とは何だろう。それは仕事であったり、志であったり、愛する人や、家庭であったり、自分の夢であったり…。ここで言う”大きな岩”とは、君にとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君はそれを永遠に失う事になる。もし小さな砂利や砂や、つまり自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしていけば、君の人生は重要でない「何か」に満たされたものになるだろう。そして大きな岩、つまり自分にとって一番大事なものに割く時間を失い、その結果それ自体失うだろう。」